

2015 SUPER GT
LM-corsa・OTG Race Report
第7戦 オートポリス

◆ 11月1日(日) <決勝> 天候:曇りのち一時小雨 | コース状況:ドライ→ハーフウェット

#60 SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 / 飯田章・吉本大樹 10位



11月の声を聞き、寒さも一気に冬本番。前日の秋晴れから一転し、白い雲が空を覆うコンディションで明けた11月1日、阿蘇外輪山の山麓に位置するオートポリスでは、2015年 AUTOBACS SUPER GT のシリーズ第6戦、SUPER GT in KYUSHU 300km の決勝レースが行われた。LMcorsa チームでは昨年使用した BMW Z4 に替えて、新たに開発を進めてきた LEXUS RC F GT3 にマシンを変更。テスト時間が限られた SUPER GT ではマシン開発は想像していた以上にハードで、

完走すら覚束ないこともしばしばだった。それでも、8月末に行われた第5戦の鈴鹿、9月下旬に行われた第6戦の菅生、と2戦連続で完走。特に第5戦の鈴鹿はレース距離が1000kmと、シリーズでも屈指となる長丁場のレース。このタフなレースを完走したことで#60 SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 は、大きく進化する足掛かりを得た。というのも、レースを走りきってマイレージを積み上げていくことで、数多くのデータが蓄積され、それがクルマのセットアップを進めることになり、さらにクルマが速くなる…、という好循環を生むからだ。そして今回のオートポリスでも予選では苦労したもの、決勝レースに関してはチーム全員がポジティブにとらえていた。

朝一番のフリー走行で#60 SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 は1分48秒575をマーク。これはクラス23番手でトップから3秒以上の大差があったが、FIA-GT3カテゴリーのクルマとしてはトップから約2秒。それにこのフリー走行はマシンのコンディションやフィーリングをチェックするための時間でタイムを競う訳ではない。そして肝心のマシンのフィーリングに関しても、ドライバー2人には上々と映ったようだった。

決勝レースは午後2時にスタートした。飯田章がスタートを担当した#60 SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 は、ポジションをキープしたままオープニングラップを終えると、1分50秒前後の安定したペースで周回を続けた。このタイムは、取り立てて速い、というものはなかったが、それでもこのペースで安定して走行を続けることができたのはマシンが着実に“改善”されてきた証拠。さらに状況が許せばさらにペースアップすることは可能で、実際、飯田も何回かは49秒台に入れている。こうして着実に走行を続けた結果、#60 SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 は着実にポジションをアップ。前半のステイートを引っ張ったことも手伝って、37周目にはクラス6位にまで進出した。その後飯田は38周を終えたところでピットイン。タイヤを交換しガソリンを補給、後半のステイートを担当する吉本大樹に交替した。

飯田から引き継いだ吉本はクラス15位で再スタートして行ったが、彼もまた粘り強いドライブを続けることになる。そしてフレッシュなタイヤの交換したことも手伝って少しペースアップ。ペースラップを1分50秒台から49秒台後半まで上げるとともに、何度か48秒台にも入れ、42周目には1分48秒346のベストラップをマークしている。何よりもコースが荒れてきたレース終盤も、ペースを乱すことなく集中して周回。開幕戦以来となる10位入賞を果たすことになった。

次戦は 2 週間後のシリーズ最終戦で、舞台はストップ＆ゴーのレイアウトで知られるツインリンクもてぎ。第 5 戦の鈴鹿から良い流れで繋いできただけに、有終の美に期待が高まるところだ。



ドライバー／飯田 章

「鈴鹿の 1000km から 3 戦連続で完走することができ、しかも今回は開幕戦以来となる 10 位入賞を果たすことができました。ただ内容的には我慢の展開で苦しいレースでしたが、ポイントが取れたことで疲れも吹っ飛びました。クルマに大きなトラブルが出なかったことも大きな要因ですが、パフォーマンスについてはまだまだ“改善”していく必要があります。それでも、ここまで良い流れで来ているので、この流れで最終戦に臨みたいですね」

ドライバー／吉本大樹

「今日は最後尾からのスタートだったのですが、アキラさん(=飯田章選手)が苦しいなか何とか前のクルマについて行ってくれた。ペースが安定していただけてなくノーミス・ノートラブルだったこともあって一つ、また一つとポジションを上げることができました。レース終盤になって路面が濡れてきたりトリッキーな展開になったことも、僕たちに味方してくれました。たかが 10 位と言われるかもしれませんが、僕たちにとっては大きな価値ある 10 位でした。最終戦でも頑張ります」

監督／小林敬一

「疲れたけど、いい週末になりました。クルマの性能差はどうしようもないのですが、それでも、今日のようなレースになると、性能差が縮まって来る。それにタフな展開だとミスやトラブルも出てき易いのですが、自分たちがミスをしないで走っていれば、相手のミスを拾う(=ミスで後退するライバルに変わって自分たちがポジションアップして行ける)ことができる。今日はそんな典型になりました。10 位入賞で 1 ポイント獲得することになりましたが、その 1 ポイント以上に内容のあるレースになりましたね。最終戦に向けても頑張っていくので、応援をよろしくお願いします」

